石段の昇り降りをサポート

高校生が伝統行事を未来へつなぐ

福井県・敦賀湾を望む小高い山に建つ金崎宮（かねがさきぐう）は、約400本のソメイヨシノが咲く桜の名所として知られています。ここで毎年、桜の開花に合わせて10日間ほど開催されるのが、「花換（はなか）えまつり」。明治時代後半に男女が「花換えましょう」といって、桜の小枝を交換し想いを伝えあったのが始まりといわれる、なんとも口マンチックなお祭りです。

現在は、福娘と呼ばれる巫女さんと桜の小枝を重ね合う「花換え」をして、良縁を祈願します。桜の美しさもあって、県外からも多くの観光客が訪れる人気のお祭りですが、境内に行くには約100段の石段を登らなくてはならず、体が不自由な方はあきらめて引き返してしまうこともあるそうです。

これを知った**敦賀高等学校剣道部**の皆さんは、「自分たちにできることはないか」と話し合い、地元のボランティア団体「**花籠舎**（はなかごしゃ）」が、車いすの方を補助する活動をしていることを知って、これに参加することにしました。3月下旬から4月上旬に行われる花換えまつり期間中の土日、事前予約された車いす、ベビーカーの利用者を4人一組となって補助し、境内までの昇り降りをお手伝いしています。

敦賀支部主催の研修会にて「小さな親切」実行章を贈呈

剣道部キャプテンの**深川幸希**（ふかがわこうき）さんは、これまでの活動の中で、赤ちゃん連れのお母さんに「腰を痛めてしまい、ベビーカーで石段を登るのは難しいと思っていましたが、剣道部の皆さんのおかげで安心して登ることができました」と、感謝されたことが何より嬉しかったそうです。

先輩から後輩へと、代々受け継がれているこの取り組み。休日の活動にもかかわらず、部員の皆さんは積極的に参加しています。

「地域を良くしたい」と力強く語る深川キャプテン。敦賀の伝統行事は、高校生たちの優しい気持ちに支えられていました。